

1. 安全で安心して暮らせるまちに

マップづくりは信頼関係づくり ～浸水ハザードマップの作成～
「災害、まち、ひと」を知ろう ～チャレンジぼうさい in 四季が丘～
支所が地域をつなぐまちづくり ～防災を考えるつどい～
守りたい。地域の絆と未来につながる笑顔 ～消防団活動事業～
人の命、家族の安全を守る家づくり ～木造住宅の耐震化を促進する事業～
方法を工夫した情報発信にチャレンジ ～宮島消防署の弥山登山注意喚起動画の作成～

マップづくりは信頼関係づくり ～ 浸水ハザードマップの作成 ～

■事業概要

info

平成 24 年度、佐伯地域及び吉和地域において、それぞれ住民参加により住民の知っている情報や過去から伝わる情報を持ち寄り、浸水が予測される区域および浸水の深さのほか、避難施設、防災関連施設などの情報を掲載したマップを、ワークショップを開催しながら作成します。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市地域、大野地域、宮島地域では、すでにハザードマップが作成されていますが、佐伯地域及び吉和地域では未作成のため、今年度作成することになりました。災害時に備えて、日頃からの防災活動にお役立てもらうためにもマップづくりは必要です。



上垣 僚さん

友和地区コミュニティ推進協議会

協議会の生活安全部で自主防災に取り組もうとしていたので、活発な話し合いができています。マップづくりをきっかけに、住民や市職員といろいろなことが話せましたが、こんなふうにお互い何でも相談できる関係が大切です。それを協働につなげることが大事。小さな事柄でもそこにつながっていくと思います。

完成後は、いざというときに逃げる場所を確認するためにも、皆でマップを持って地域を歩きたいと思います。



荏原 一仁さん

総務部 危機管理課

マップづくりが始まる前は、参加人数や積極的に知識・情報を出してもらえるか不安でした。しかし、地元住民の熱意や佐伯支所の調整力により活発な話し合いが行われ、非常にきめ細かいマップができるのではないかと考えています。関わる人が面と向かいそして話し合って進めることが大切。できたマップは防災の取組はもちろんですが、健康づくりなどさまざまな場面で利用し、地域づくりに役立ててもらいたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

今回のマップづくりでは、友和地区の住民、佐伯支所職員、危機管理課職員、それぞれの間でワークショップの前後に「顔を合わせて」よく話し合いができていた点が、活発なワークショップにつながっていると感じました。関係づくりの継続が地域の防災に効果を発揮すると思います。

2012. 9. 12 取材

「災害、まち、ひと」を知ろう ～ チャレンジぼうさい in 四季が丘 ～

■事業概要

info

平成26年度に、防災に関わる人材の裾野拡大と地区住民の防災意識の底上げのため、四季が丘地区自主防災連絡協議会と市が連携して、「チャレンジぼうさい in 四季が丘」という事業を立ち上げました。

具体的には、防災講演会やウォーキングなどの6つの地域行事＋防災訓練に参加してポイントを貯めると記念品がもらえるという取り組みにより、多くの地区住民に防災に対する意識を持ってもらえるような機会づくりを行っています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

四季が丘地区自主防災連絡協議会は、平成16年の発足以後、防災マップの作成や全町内会での防災訓練、大学教授による防災講演会など、自主防災活動を継続的に実施しており、平成22年には広島県知事表彰（自主防災組織の部）を受賞しました。平成26年からは、市と連携し、「チャレンジぼうさい in 四季が丘」を立ち上げ、「災害」、「まち」、「ひと」を知ることが『防災』に繋がることを伝え、地区住民の防災意識の底上げに取り組んでいます。



藤田 章さん



前田幸太郎さん



尾崎 節夫さん



湯田 廣敏さん

四季が丘地区 自主防災連絡協議会

夏祭りやとんど祭りなど、普段から地域で行っている行事に防災の視点を取り入れたことで、地区の住民には、少しずつ防災意識が浸透してきているのではないかと考えています。市の職員は、関連行政機関との連絡調整や計画・スケジュールの作成など事業への積極的な参加支援をしてくれて、感謝しています。

今後は、避難行動要支援者名簿とあわせて防災マップを作り直し、それを踏まえた防災訓練を実施するなど、新たな取り組みをつなげていきたいです。

自治振興部 地域政策課

自主防災連絡協議会の方々が、お仕事のかたわら、精力的に活動されている姿に感心するとともに、感謝しています。協働とは、地域と行政が話し合い、目的を共有し、同じ方向を見て、できることをやっていくことだと思っています。市でできること、地域でできることは違うので、市の役割をしっかりと果たして地域のサポートをしたいと思っています。

今後は、四季が丘地区で培ったノウハウを生かして、同じようなプログラムを、他地域にも広めていきたいです。



佐川 智弘さん



中濱 泰洋さん



竹内 詔二さん



出口美知郎さん

■インタビューを終えて・・・

review

地域と市が一緒に考え、毎年活動を進化させながら継続的に取り組んでいることに、感銘を受けました。市職員が現地に出て、地域の活動を知り、市にできることを考える、その姿勢から地域との信頼関係が生まれていると感じました。

2015.11.7 取材

支所が地域をつなぐまちづくり ～ 防災を考えるつどい ～

■事業概要

info

平成 23 年 3 月 11 日に起こった、東日本大震災。佐伯地域にも被災地への支援にさまざまな立場に関わった人がいました。この貴重な経験を地域全体で共有したいと、その年の 8 月に被災地報告会を行いました。今後の防災のあり方を地域と行政と一緒に考えることができた、貴重な機会となりました。



■事業の背景やきっかけ

introduction

緊急消防援助隊として出動した廿日市消防署佐伯分署員、ボランティア、そして被災を体験された人が地域におり、防災を考えるきっかけづくりとして、被災地報告会を開くことになりました。佐伯支所から、津田・四和ふれあいまちづくりの会へこの取組について提案したところ、防災に取り組みたい時期であり、また、市民センター職員の意欲もあって、打ち合わせ会議を何回も重ね、役割分担や意見交換を行い、内容の濃い報告会を開催することができました。



山田 耕造さん

津田・四和ふれあいまちづくりの会

以前から、コミュニティで防災の取組はやりたいと思っていましたが、なかなかうまくいっていなかったのが、良い機会になると思いました。報告会に参加してくれるよう声かけやチラシの新聞折込をして、地域の皆さんに呼びかけましたが、参加者は予想より少なかったです。今回の 1 回だけでなく、続けて開催することが大切だと思いました。このコミュニティが設立して 5 年になります。コミュニティから市への積極的な提案はまだ難しいですが、一緒にまちづくりに取り組んでいきたいです。



倉田 耕三さん

佐伯支所

「防災を考えるつどい」は、コミュニティの方々のほか、消防団や女性会など、佐伯地域の皆さんの力を結集したからこそ、開催できました。今回に限らず、声をかけると、すぐに賛同してくださるばかりで感謝しています。このように、いつも地域と一緒に取り組みたいのですが、なかなか具現化できていないのが現状です。今回の報告会がきっかけとなり、地域全体に防災の意識が根付き防災訓練が地区ごと、地域全体で実施できるよう、事業の提案などに取り組んでいきたいです。

■インタビューを終えて・・・

review

報告会は、広報活動、体験談のパネリスト、コーディネーター、炊き出し調理など、すべての役割を佐伯地域の人々が担い、開催しました。人の力を生かし、まちづくりを活性化させるためにも、地域の人を結集させる、支所の「つなぎ」としての役割が大切になります。

2012. 9. 18 取材

守りたい。地域の絆と未来につながる笑顔

～ 消防団活動事業 ～

■事業概要

info

消防団は、消防本部や消防署と同様の消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担っています。近年は、女性の消防団への参加の呼びかけを行うなど、団員の募集に力を注いでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

全国で過去 200 万人いた消防団の団員数は、現在では約 88 万人になっています。消防団員数が減少する一方で、女性消防団員数は年々増加しています。消防団の組織の活性化や地域のニーズに応える方策として、女性消防団員を採用しようという動きも全国的に広まっています。

廿日市市においても、女性の持つソフトな面をいかして、特に一人暮らし高齢者宅への防火訪問、応急手当の普及指導などにおいて活躍を期待し、参加を呼びかけています。



伊藤 博さん

廿日市市消防団

消防団員を始めて約 40 年。長年やっていると消防だけでなく地域のコミュニティでもつながりもあり、お互いを知り尽くしていることから、人との輪のとりやすさを感じています。

若い世代の人員不足を懸念していますが、団員増に向けては、人の思いつかないことをやらないといけません。女性の団員も増やしていきたいと思います。

また、災害の少ない地域なので、常に訓練し、コミュニケーションを図っていくことが必要と思っています。



西村 典教さん

消防本部 警防課

本業のある中で活動してくださる団員の皆さんには感謝しています。皆さんからは自分の地域は自分で守るという熱い思いが伝わってきます。地域に密着した活動であり本部にない地域の詳細な情報も持っておられるなど、地域に頼りにされる存在です。団員が 2 年連続増えていますが、これは皆さんが地域での声かけを積極的に本気でやっていたいていたためです。これからもお互いの関係を大切にして、取り組みたいと思います。

■インタビューを終えて・・・

review

市民の安心と安全を守っていくために、人間関係を大切にしながらお互い活動していきたいというお二人の思いが、今も心に残っています。このような信頼関係のある消防団活動を多くの人に知ってもらい理解していただくことが、団員増に向けた取り組みにつながると思いました。

2012. 9. 12 取材

人の命、家族の安全を守る家づくり ～木造住宅の耐震化を促進する事業～

■事業概要

info

NPO法人広島耐震マイスター倶楽部と廿日市市建築指導課が協力し、市民を対象にした木造住宅の「無料耐震診断」と「耐震セミナー、耐震無料相談会」を毎年実施しています。

大規模地震に備えて耐震化を促進するため、耐震診断・耐震改修等、住まいの安全性を高める技術や手法の研鑽を積んだこのNPOに、市が耐震診断を委託。耐震セミナー等は共催の形で行っています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市は、平成20年3月に耐震改修促進計画を策定し、民間住宅を含む建築物の耐震化の促進に本格的に取り組み始めました。このとき、広島県の担当職員の紹介で、県内住宅の耐震化に向けて活動を展開していたこのNPO（事務局：廿日市市内）と出会い、同年9月から毎年耐震セミナー＆耐震相談会を共催で行うこととなりました。無料耐震診断は、平成20年度から25年度までに累計で99戸行っています。



小野 晃佑さん

NPO法人 広島耐震マイスター倶楽部

私たちは、阪神淡路大震災の悲劇を絶対風化させてはならないという使命感を持つ建築家が結集し研究会からスタートしたNPOです。平成19年、広島県が耐震改修促進計画を策定。この動きに合わせて、地震の正しい知識等の啓発活動を県内各地で実施してきました。廿日市市内の市民センターからもセミナー開催の要望があり平良等で行いました。終了後も個別に耐震化等の相談を多く受けました。私たちの活動は行政の後押しで成り立っています。行政とベクトルを合わせて取り組んでいます。



生永 政志さん

都市・建築局 建築指導課

NPOとの連携により、本市の耐震診断の状況は着実に進んでいます。また、耐震診断後の改修工事においても、市の補助金だけでなく、NPOが国から採択を受けた長期優良化住宅リフォーム推進事業による補助金を紹介できるため、補助額も対象の工事内容も充実しています。

省エネ対策などで家の質の向上を図り寿命を延ばすこと、耐震化による家の強化は、市民の命を守ることにつながります。安全・安心で住みやすいまちができたかなと思います。それが使命です。

■インタビューを終えて・・・

review

NPOと行政が同じ方向を向き、社会の公益に取り組むことで、市民へのNPOの認知度が高まるとともに、正確な耐震診断の実績と丁寧な診断結果の説明から、会員である企業と業界の信頼も高まり、多様な主体の連携・協力による安全・安心なまちづくりが着実に進んでいくと感じました。

2014.9.18 取材

2021
新着

方法を工夫した情報発信にチャレンジ ～宮島消防署の弥山登山注意喚起動画の作成～

■実践事例

info

宮島消防署では、弥山での登山事故を減らすための広報を、さまざまな国から観光客が訪れることも考えて、動画で行おうと考えました。動画作成の予算はないし、経験者もないけど、安全・安心なまちを目指して、「やれば、できる」を実践しました。



■実践内容

main

1. この取り組みの背景

嚴島神社のある宮島には、標高535メートルの弥山があります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大前は、年間400万人を超える観光客が訪れており、登山客も年間10万人ほど訪れていました。登山客の中には、事前準備をしない方もいましたので、注意喚起の広報を行っていました。

2. 工夫した点は？

登山に関する知識を付け、準備をしっかりといただくことで、登山事故を減らすことができるので、どのように広報をすべきか考えました。

動画を撮影する様子



そこで、インターネットの動画共有サービスを活用すれば、宮島に興味を持たれている多くの人に見ていただけたと考え、動画撮影に挑戦しました。さらに、アニメーションにして、海外の方にも見ていただくことにしました。

3. 結果として

宮島では、これまでチラシの配布やラジオによる広報を行ってきました。これは、決められた地域の方には影響力は高いですが、宮島のように様々な国や地域から人が訪れる場合には、広く情報を発信していく必要があることに気付きました。

■協働に近づいたポイントは？

review

情報は、相手方に受け取っていただくことが大切です。宮島が持っている特性を考え、世界中に届くよう動画を作成し、さらに英語音声版も作成しました。受け手のことを考えて情報を届けることも、協働にとって大切なことだと思います。

2021. 10. 19 研修発表から